

被爆77周年
第37回
埼玉県原爆死没者



慰 霊 式

と き 令和4年（2022年）7月31日（日）
午前10時より正午まで

と ころ さいたま市浦和区岸町 7丁目 5番14号
さいたま共済会館6階ホール

主 催 埼玉県原爆被害者協議会

協 力 埼玉県原爆死没者慰霊式実行委員会
埼玉県地域婦人会連合会 埼玉県生活協同組合連合会
埼玉県平和運動センター 原水爆禁止埼玉県協議会
他 12団体

後 援 埼 玉 県 埼玉県教育委員会
さいたま市 さいたま市教育委員会

第37回埼玉県原爆死没者慰霊式 式次第

オープニング

- 1, 開式のことば
- 2, 死没者名簿奉納・会員物故者紹介
- 3, 平和のとしび紹介
- 4, 黙 禱
- 5, 主催者慰霊のことば
- 6, 来賓あいさつ (県知事・さいたま市長)
- 7, 追悼メッセージ披露 (広島市長・長崎市長・日本被団協)
- 8, 来賓あいさつ (国会議員各会派代表)
- 9, 平和の誓い
- 10, 被爆の証言
- 11, 献花 折り鶴奉納
- 12, 原爆を許すまじ (黙唱)
- 13, 閉式のことば

慰霊碑建立の趣意

昭和20年8月6日と9日に広島、長崎両市で原子爆弾に被爆し、現地で死亡・又は帰郷後に原爆症の後障害で死亡した埼玉県民及び同じく被爆者で戦後、他県から埼玉県に移住して後に死亡した者、更に、埼玉県民で引き取り人のないまま遺骨がまだ現地に留まる者、遺骨もなく広島、長崎の地の下に今も虚しく埋もれる者など、惨苦のうちに世を去られた埼玉の被爆者の御霊に「人類初めての核兵器の犠牲者」に相応しい弔意を捧げ、「二度と被爆者をつくらせぬ」とする被爆者の悲願と核兵器廃絶への県民の決意を後世に遺すため多数有志の方々の御協力をえて

ここに原爆死没者慰霊碑を建立する

1986年7月12日

埼玉県原爆被爆者団体協議会

(慰霊碑裏面の銘板より)

慰霊のことば

令和4年度、第37回埼玉県原爆死没者慰霊式にあたり、主催者を代表して、原子爆弾の犠牲になられた埼玉の被爆者の御霊に、慰霊のことばを捧げます。

私たち被爆者は、ふたたび同じ苦しみを世界の誰にも味合わせないために、核兵器も戦争もない世界の実現を求めるとともに、私たちが受けた原爆の被害に対する国の償いを求めてきました。

2017年7月採択され、昨年1月22日に発効した「核兵器禁止条約」の第1回締約国会議が、6月21～23日オーストリアのウィーンで開催されました。23日の最終日に、「核兵器のない世界への私たちの約束」と題する「ウィーン宣言」と「ウィーン行動計画」を採択、宣言の最後で「私たちは最後の核弾頭が解体・破壊され、地球上から完全に廃絶されるまで、休むことはないだろう。」と述べています。

私たちは、核兵器禁止条約に反対し、署名も批准もしない日本政府に対し「核兵器禁止条約に署名・批准を求める」署名運動に取り組んでいます。

2月24日ロシアが突然ウクライナを侵略し、その後のプーチン大統領の核兵器使用をうかがわせる、再三の威嚇は世界に衝撃を与えました。

この深刻な事態に便乗するかのような、日本の元総理や議員、政党からの「核共有」論を被爆者は容認できません。アメリカの核兵器の共有は、日本が核武装することであり、アメリカの指令のもとに発射ボタンを押すことは日本が加害国になることです。

本年もコロナ禍のなかで行われる慰霊式は、県民の皆さんに同時参加していただくようにと、慰霊式の全容をオンラインで配信することにしました。

広島・長崎の非人道的惨禍を体験しその中から生まれ世界に誇れる憲法9条を大切に、日本がふたたび戦争をする国にならないよう、戦争の愚かさ、核兵器の残酷さ、非人道性を明らかにし、同時に平和の尊さを考える継承運動を推進しています。

結びに、慰霊式を支えてくださる、団体個人の方々としっかりと手を携えて、核兵器も原発もない世界の実現に活動を続けます。

このことを御霊にお誓いし、慰霊の言葉とします。

令和4年（2022年）7月31日

埼玉県原爆被害者協議会
会長 原 明 範

埼玉県知事メッセージ

本日、第37回埼玉県原爆死没者慰霊式が挙行されるに当たり、原子爆弾の犠牲となられた数多くの方々の御霊に対し、謹んで、哀悼の誠を捧げます。

そして、今なお、被爆による後遺症に苦しんでおられる方々に対し、心からお見舞いを申し上げます。

今日の私たちは、先人たちの不断の努力によって築かれた目覚ましい発展と平和な世の中を享受しています。

しかし、世界に目を転じると、今なお、他国への侵攻や地域紛争が絶えず、人々を苦しめています。

このような中、戦争の悲惨さや原爆の記憶を風化させることなく次世代に語り継いでいく場として、この慰霊式を長年にわたり開催されている埼玉県原爆被害者協議会の皆様の御尽力に対して、改めて深く敬意を表します。

私も、埼玉県知事として、多くの方々が今なお原子爆弾被爆による健康被害に苦しんでおられる現状に思いを致しながら、被爆者の皆様に寄り添った支援を継続して行うとともに、県民の皆様に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えるなど、平和で安心して暮らせる地域社会の実現に向け全力を尽くしてまいります。

結びに、原爆死没者の方々の御冥福を改めてお祈り申し上げますとともに、皆様の御健勝と御平安を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

令和4年7月31日

埼玉県知事 大野元裕



さいたま市長メッセージ

第37回埼玉県原爆死没者慰霊式の挙行に際しまして、原子爆弾の犠牲となられた数多くの方々の御霊に対し、謹んで、哀悼の誠を捧げるとともに、今なお被爆の後遺症に苦しまれている方々に、心からお見舞いを申し上げます。

また、被爆者の援護や核兵器廃絶に向けた活動に日々取り組まれている埼玉県原爆被害者協議会の皆様の尊い志に対し、心より敬意を表します。

さて、世界に目を向けてみますと、今もなお他国への侵攻や地域紛争が絶えず、罪のない人々が戦禍に遭っていることに、深い悲しみを感じています。世界の誰もが平和で心豊かに暮らせる世の中の実現が望まれます。

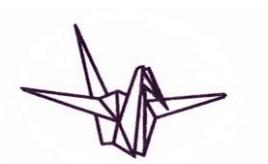
広島、長崎への原子爆弾の投下から、まもなく77年が経とうとしています。このような惨劇が二度と繰り返されてはならない。唯一の戦争被爆国として「核兵器のない世界」の実現に向けた歩みを着実に前に進める努力を重ねていくこと、核兵器使用の惨禍やその非人道性を語り伝え、次代を担う子供たちへ継承していくことは私たちの使命です。

本市におきましても、さいたま市平和展や、埼玉県原爆被害者協議会の皆様の協力を得て作成した、被爆体験者証言映像などを通じ、我が国の戦争の体験を後世に伝え、核兵器廃絶と世界の恒久平和実現に貢献するべく尽力してまいります。

結びに、原子爆弾の犠牲となられた方々のご冥福と、ご遺族、被爆者の皆様、並びに御参会の皆様方の御多幸を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

令和4年7月31日

さいたま市長 清水 勇人



広島市長メッセージ

「第37回埼玉県原爆死没者慰霊式」が開催されるに当たり、メッセージをお送りいたします。

77年前、広島に投下された一発の原子爆弾は、罪のない多くの人々に惨たらしい死をもたらし、辛うじて生き延びた人々にも心身に深い傷を残しました。被爆者は「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」との願いを発信し続け、昨年1月には核兵器禁止条約の発効という形に結実しました。

しかし今、国際社会では、ロシアによるウクライナ侵略により、軍事力による暴挙は軍事力によって抑え込むしかないとの危険な考えが勢いを増しており、こうした流れを変えていく必要があります。

核兵器廃絶の道のりは決して平坦ではありませんが、市民社会の一人ひとりが平和を願い、発信し続けることは、為政者に政策転換を決意させるための原動力になります。そうした意味からも皆様が慰霊と誓いの「埼玉県原爆死没者慰霊式」を毎年開催しておられることは誠に意義深く、その取組に深い敬意を表します。

本市は、あらゆる暴力を否定する「平和文化」を市民社会に根付かせ、為政者の政策転換を促す環境づくりを進めており、核兵器廃絶に向け共に行動して下さることを期待しています。

終わりに、改めて原爆死没者の御霊に心から哀悼の意を表しますとともに、御参会の皆様のご健康と御多幸を心からお祈りいたします。

令和4年（2022年）7月31日

広島市長 松井 一實



長崎市長 メッセージ

このたび、「第37回埼玉県原爆死没者慰霊式」が挙行されるにあたり、原爆死没者の御霊に謹んで哀悼の誠を捧げます。

1945年8月9日午前11時2分、浦上の上空で炸裂した一発の原子爆弾により、長崎のまちは一瞬にして壊滅しました。熱戦と爆風、そして放射能は、多くの市民を無差別に襲い、約7万4千人の尊い生命が奪われました。

今年で、原爆投下から77年を迎えます。被爆者の高齢化が進み、被爆者自身による被爆の実相の継承がだんだん難しくなっている中で、原爆の犠牲となられた方々の苦しみを風化させることなく、後生に語り継いでいくことは、私たちの重要な使命です。

長崎市では、被爆者からの平和のバトンを未来へつなげていくため、被爆の記憶の掘り起こしや被爆の体験を語り継ぐ人材の育成に力を注ぐとともに、様々な世代の方々に平和を身近に感じてもらえるよう、これまでにない平和の新しい伝え方を探し出し、支援する取り組みを行っています。皆様方におかれましても、核兵器廃絶や平和な世界の実現に向けて、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、埼玉県原爆被害者協議会のますますの御発展と本日ご臨席の皆様方の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、私のメッセージといたします。

2022年（令和4年）7月31日

長崎市長 田上 富久



原爆平和への誓い

埼玉県立熊谷高等学校

鈴木雄輝・井上晴太

本日は原爆死没者慰霊式典にお招きいただき誠にありがとうございます。そして、原子爆弾によって命を落とされた方々に深く哀悼の意を捧げます。

我々、熊谷高校の掲げる校訓のひとつに「自由と自治」というものがあります。自ら考え、行動する。与えられた自由の数だけ、責任がある。自らの考えで自らの選択をすることの大切さを説いており、熊高生はこれを胸に高校生活を送っています。先の大戦では、この自由と自治が拘束され、人々は自由な議論が抑制されました。その結果、国権の発動たる戦争に突入し、日本国民のみならず世界の人々に多大な惨禍をもたらす結果となりました。その戦争の最後に人類史上、初の核兵器が使用され、核の時代という不幸な時代が訪れたのでした。この自由と自治を不断の努力で守り高めてゆくことが戦争を抑止することだと考えています。

私達は、戦争経験者の生の声を聞くことのできる最後の世代です。8月6日、9日に広島、長崎で起こった悲劇を子どもたち、孫たちの世代へと脈々と受け継ぎながら伝えていかななくてはならないと思います。

今も世界では戦争や内戦が起こっており、命の危機に瀕している人々がいます。そして、最近ではロシアのプーチン大統領がウクライナ侵攻において核兵器の使用を示唆するなど時代に逆行する決して平和とはいえない状態が続いております。私達が生きるこの世界で核兵器が使われないようにする為には、世界の国々や国際機関、企業、個人が原子爆弾の悲惨さや核兵器のみならず、戦争そのものに対して反対という声をあげ続けることが大切だと思います。自由にもものが言える社会を守ること、これこそ自由と自治を校訓とする我々、熊高生の使命であることを確認し、自由な社会の維持に尽くすことをこの場を借りてお誓い申し上げます。

ご あ い さ つ

ご遺族はじめ、ご参列のみなさま

原爆によって命を奪われた方々に、ふかく追悼の意を表しますとともに、お集まりのみなさまに心からのごあいさつを申し上げます。

1945年8月6と9日の、米軍による原爆投下から77年になります。この77年という歳月を、私たちは「あの日」の、人間として受け入れがたい体験を胸に生きてきました。

年を追うごとにより深く刻まれていく記憶に、原爆に殺された肉親、友人、仲間たちの無念の思いを重ねて、原爆被害は受忍できない、ふたたび被爆者をつくるな、核兵器をなくせと、運動を続けてきました。

原爆被害への国家補償も、核兵器廃絶も、いまだ実現していません。

しかし、核兵器禁止条約が発効したことに力を得て、私たちは更に運動を強める決意です。

日本政府は依然として核兵器禁止条約に背を向けています。原爆被害への国家補償を拒み続けていることと合わせ、許すことはできません。

原爆と同じ核エネルギーを利用した原発も、国民の安全を確保するためにはゼロを目指すしかありません。

遠い空から私たちの運動を見守っておられるみなさん。

私たちは、1日でも長く生きて、原爆被害への国家補償と核兵器廃絶を必ずや勝ち取ることを、ここに固くお誓い申し上げます。

第37回埼玉県原爆死没者慰霊式 御中

2022年7月31日

日本原水爆被害者団体協議会



原爆を許すまじ

1、ふるさとのまち焼かれ

身よりの骨うめし焼け土に

今は白い花咲く

あゝ許すまじ原爆を

三度許すまじ原爆を

我らの まちに

2、ふるさとの海荒れて

黒き雨喜びの日はなく

今は船に人もなく

あゝ許すまじ原爆を

三度許すまじ原爆を

我らの 海に



3、ふるさとの空おもく

黒き雲今日も大地おおい

今は空に日もささず

あゝ許すまじ原爆を

三度許すまじ原爆を

我らの 空に

4、はらからの絶え間なき

労働にきづきあぐ富と幸

今は全てついえ去らん

あゝ許すまじ原爆を

三度許すまじ原爆を

世界の 上に



埼玉県原爆死没者慰霊碑建立の経緯

被爆40周年を記念して、埼玉県出身で広島・長崎の地であるいは、埼玉県に移り住んで亡くなった方々の慰霊と、決して再び被爆者をつくらせてはならないとの決意を込めて昭和61年（1986年）7月12日、県知事、全市町村の首長、各級地方議員の皆さんや、あらゆるつながりの^{つて}伝をたより、2000名を越える県民有志からの397万4625円もの浄財により、当時の県立別所沼公園（現・さいたま市公園緑地協会）に埼玉県知事の了解と指示により建立される。

（『原爆許すまじ 第3集』より抜粋）